



弘陵造船航空会 四国丸亀地区地方会員との交流会報告

平成 30 年 9 月 22 日
会長 珠久 正憲

弘陵造船航空会の本年度の活動として、地方の会員と本部の役員の交流会を企画している。その趣旨は、なかなか中央の会合への出席が困難な地方の会員の生の声・要望を、本部役員が地方に出向き懇談・交流することを通して吸収し、会員全体で共有を図ることにより、同窓会活動活性化の一助とすることにある。

今回はその第 1 回として、四国丸亀地区の地方会員との交流会を 8 月 28 日に開催した。最近 10 年間の卒業生の就職状況を勘案すると、今治造船(株)丸亀地区には比較的多数の若手会員が集まっており、同社を中心に、周辺の川重坂出、三井玉野の会員にも参加を呼び掛けることにより一定規模の交流会開催が期待できると判断した。世話役として、今治造船(株)の戸来直樹君、川崎重工業(株)の八尾康正君(中国在住)の協力を要請し、また入江総務担当理事より三井玉野の会員の紹介も受け、準備を進めた。学生夏季実習の教員見廻りスケジュール(8月28日三井玉野、29日川重坂出)に留意し、満行准教授が参加可能な8月28日を設定した。

- ① 日時：平成 30 年 8 月 28 日 1830～2200
- ② 会場：丸亀市通町 52-1 通町ビル 居酒屋 「村さ来」
丸亀地区の会員懇親会に、本部の珠久会長並びに横国大満行准教授が臨時に参加するというスタイルを採り、交流会運営費として 1 万円を支援することにした。
- ③ 交流会参加総数：20 名 (下表の通り)

珠久 正憲	1970 卒	会長	阿部 哲朗	2010 卒	今造船体設
満行 泰河	2014 東大卒	准教授	宮崎 水樹	2010 卒	今造計画設
小西 金博	1962 卒	川重 OB	高崎 怜史	2010 卒	今造船体設
小山田 司	1974 卒	川重 OB	間瀬 貴行	2011 卒	今造船体設
山本 輝明	2004 卒	ABS	石原 貴裕	2012 卒	今造基本設
星出 知孝	1996 卒	今造機装設	吉村 卓	2013 卒	今造船装設
平岡 健志	1997 卒	今造基本設	奥野 隼平	2015 卒	今造計画設
溝口 拓也	2000 卒	今造船体設	中村由可莉	2015 卒	今造組立
戸来 直樹	2006 卒	今造計画設	松本 恵介	広島大卒	今造計画設
藤田 修	2009 卒	今造基本設	島田 紀行	大府大卒	今造基本設

参加者は、珠久並びに川重 OB の小西、小山田さん以外は全て 20～40 代で、この年齢構成が議論を活発化させた要因と判断している。川重は 29 日会社主催の実習生歓迎会が予定されており現役の参加は叶わなかった。また三井玉野は最後まで調整頂いたが、予定が合わず今回は不参加となった。なお今造の会員の同僚であり、珠久熟知の他大学出身で同社の中間管理職である島田君、松本君から飛び入りの参加の希望があり、異なる視点からの問題提起を期待して了承した。懇親会の主体となる今造への実習生がゼロであったため、(満行先生の事前了解も得て)川重、三井への実習生への参加呼び掛けは行わなかった。

- ④ 交流会は、会長からの趣旨説明、参加者全員の自己紹介から始まり、22 時過ぎの戸来君の一本締めまでの約 3.5 時間、皆相互に懇談・交流し完全燃焼して頂いた。特に普段交流の少ない川重 OB の小西さん、小山田さん、ABS の山本さん、大学の満行先生の周りには多くの議論の輪ができ、また島田君、松本君も積極的に議論に参加頂き、普段の今造の狭い枠を超えて交流しているように見えた。全ての議論に加わった訳ではないが、参加者の感想等を踏まえ全体を総括すると下記のとおり。

- 本交流会直後の 8 月 31 日の朝刊で、FC 今治代表の岡田武史氏が、「あれだけ自由奔放にサッカーをするスペイン (バルセロナ) にも、ベースには一種の型、共通原則がある (最初から個人に自由奔放なプレイを許している訳ではない)」、「日本古来の考え方である守破離、すなわち師匠の教えを先ず守り、次にこれを破り、最後は離れる (自由奔放に我が道を拓く) というプロセスが重要だ」ということを述べられている。岡田氏の主張は、華麗な個人技に目が向きがちな日本サッカーで忘れられている基本即ち守のプロセスの重要性に力点を置かれているように見える。私は造船業においてもこの守破離の成長のプロセスは重要であると考えているが、職場の先輩や同僚に学び基本を身に付けた上での、新しい世界に踏み出し叩かれ、失敗を経験し自らを鍛え、自分なりの世界を見出し、自立を図るという破離のプロセスがとりわけ大切であると考えている。
- 私は、若手技術者は一般に OJT などを通して自らの直面する業務に真面目に取り組むのは得意であるが、会社業務から離れた新しい世界に飛び出すことには聊か消極的ではないかとの先入観をもってしたが、今回若手会員が (前述のとおり) 交流の少ない諸先輩の知見、成功／失敗経験等に積極的に学ぼうとする姿勢が見られ、上の守破離の精神に照らし好感が持てた。若手現役世代にとっては、同窓会云々以前に自らの殻を破り発展・伸長のヒントを如何に得るかにキーンであるように感じられた。自ら伸びようとする若手会員に、本交流会の如くその環境・場を提供するのも、同窓会活動の重要な一つの役割ではないかと考えた次第。
- 総じて今まで経験のない交流が出来て大変有意義であったとの感想が多いが、私が特に印象に残った発言を列挙すると、

・中村さんは、製造業の原点は現場にありとの信念から、自ら志望して組立に配属されている。職場の先輩との交流と共に、学会関西支部の若手技術者研修会などで会社の枠を越えて他社若手と交流しているが極めて有益で、斯かる企画に積極的に参加し伸長を図りたいと言われていた。

・10月のクラス幹事会での角前会長の講演会の紹介をしたところ、高崎君はクラス幹事ではないが、是非出席したいとの積極的な申し入れがあった。後刻本人宛案内状並びに角先生の講演要旨を送付し、是非参加頂くよう要請した。

・溝口君から今治地区では、小規模であるが船会社所属の会員と交流会を時々開催している、造船以外の職場の会員との交流を継続・拡大していきたいと。また小西さんらから、造船の狭い世界だけでなく、この地区のオール横浜国大卒業生での交流会を考えてもいいのではないかとのご提案。現実的な姿が纏るのであれば、その趣旨を尊重していきたいと考える。

・戸来君らから、小西さんら諸先輩からのISOは縛られるものではなく活用するものであること、造船の韓国、中国への安易な技術供与の反省など過去の失敗事例に学ぶべきことが多いこと、会社にしる業界にしる自分が身を置いている環境を客観的に見ることで視野が広がり自分の成長につながる（そのためには他業種を含め様々な人と交流を持つことが何より重要であること）、自身の会社だけでなく造船業界を盛り上げていくことが必要であること、所掌する狭い分野の専門家に留まらず、周辺の境界分野にも興味・関心を持って、新規の課題に直面しても的確な方針、計画が構想できる真の技術者を目指すべきこと、他業種、他分野の利点を適用、活用することにより造船業はまだまだ改善できること等有益な視点を教わったとの指摘があった。

- ⑤ 今回第1回の交流会を実施したばかりであり、開催場所それぞれに固有の直面する課題があろう故、あまり軽々に評価・結論を急ぐべきではないが、上述の通り参加する地方会員が享受するメリットが少なからず予想されるならば、今後も継続の意味はあるかと愚考する。また今回クラス幹事会講演会にボランティアに出席を希望する地方会員が出てきたことから考えて、中央の同窓会活動も、参加する会員が享受するメリットが何かについて吟味し行事内容を見直していくことも必要かと思う。

なお 今回参加した地方会員各位には、今後も弘陵造船航空会の活動、運営に関する意見、要望があれば珠久あてメール発信をお願いしている。

以上